

SAGAMIHARA GREEN

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

★「さがみはらグリーン」は、まち・みどり公社本社（けやき会館内）をはじめ、市内の市立公園や公民館、図書館等に配架しています。

URL <https://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>

Vol.66 2022.03

2～3ページ▶

‘ナラ枯れ’被害とその対策

神奈川県 県央地域県政総合センター
[森林部 森林保全課]

みどりのボランティア団体紹介
NPO法人 さがみはら桜守の会

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて
境川沿いに見る
“スプリング・エフェメラル”

ウワミズザクラ（バラ科）
花期：4月～5月
木もれびの森や
道保川公園等で見られます。



相模原市まち・みどり公社は、
「さがみはら SDGs パートナー」
登録団体です。

SDGsに貢献する「みどり」のあり方②

CO₂を固定※してくれる苔庭にチャレンジしよう

国連生物多様性の10年市民ネットワーク 代表 坂田 昌子さん

庭の片隅の薄暗く湿った所に、ひっそり生えている苔。植えた覚えもないのに…とじゃまもの扱いしていませんか？

苔は読んで字のごとく、様々な植物たちの土台となってくれます。自分の重さの約20倍もの水を貯えるほどの優れた保水力を持っているため、苔の上に落ちた種子植物たちは芽生えることができます。仮根と呼ばれる苔の根は栄養を得るためではなく体を固定するためのものなので、岩やコンクリートなどの栄養がない場所にも先駆的に侵入し、他の植物を呼び込んでくれます。さらに水分が不足すれば休眠状態となって生き抜きます。ためしにコンクリートの上などで茶色く枯れたように見える苔に、水をかけてみてください。瞬間に鮮やかな緑色に変化します。

苔は保水効果以外にもCO₂の吸収と固定という大切な役割を担っています。例えばロシア等の北の大地を覆うミズゴケは、地球規模で大量のCO₂を固定しています。このようなパワーを持つ苔は、土の少ない市街地でも大活躍できます。苔に覆われた場所には適度な水分と程よい隙間ができるため外気温を侵入させません。この断熱効果を活用したコケマットやスナゴケシートによる屋上緑化や壁面緑化が増加すれば、エネルギー節約や気候変動対策に一役買えます。

乾燥しやすい都市や町で、潤いのある美しい苔を植えることでCO₂を吸収してもらいましょう。ただし、苔は生態系にとって大事な役割を担っているの、自生地から採取するのはやめましょう。

※ここでは、光合成により大気中のCO₂を炭水化物に変え、長期間、植物体内に留めること。



キャラボクゴケ



コツボゴケ



ネズミノオゴケ

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

公益財団法人 相模原市まち・みどり公社は、地域のために活動する自治会を応援しています。

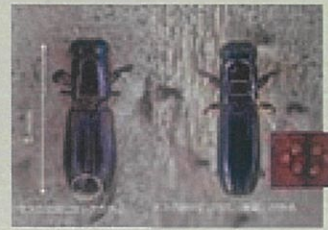
‘ナラ枯れ’被害とその対策

神奈川県 県央地域県政総合センター 森林部 森林保全課

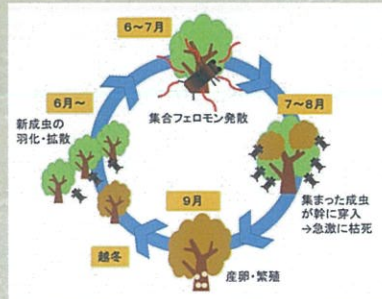
紅葉にはまだ早い真夏の時期に木々の葉が茶色く枯れている様子が県内で目立つようになってきています。この現象は「ナラ枯れ」という樹木の伝染病によるもので、山地域や里山域だけでなく、都市部の緑地・公園、街路樹など私たちの暮らしに密接したところでも発生しています。

「ナラ枯れ」とは？

カシノナガキクイムシ（通称：カシナガ）が媒介するナラ菌によってドングリのなる木（ナラ類、シイ・カシ類などのブナ科の樹木）に起こる樹木の伝染病です。



カシナガの♂(左)♀(右)
写真提供：神奈川県自然環境保全センター



図：カシナガの生活環

なぜ枯れるの？

体長5mm程度のカシナガは、繁殖のため木の幹に入り込み、孔道を作りますが、そのときに持ち込まれたナラ菌が幹内で広がり、水の道（導管）を詰まらせます。集合フェロモンに誘引されたカシナガに集団で入り込まれた木では、幹の全周で導管の詰まりが生じるため、根から葉まで水を吸い上げられなくなり、枯れてしまいます。

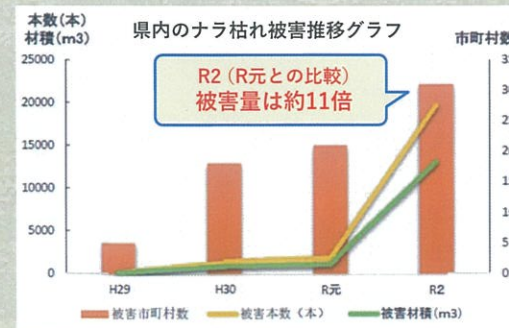


ナラ枯れによる枯死木

なぜ被害が増えている？

全国的には、1980年代に東北から西日本の日本海側で発生し、2010年度をピークに減少傾向に転じた一方で、神奈川県内では2017年に初めてナラ枯れ被害を確認したのち、全県的に被害が拡大、急増しています。

薪や炭などに使われていた林が放置され、ドングリの木が成長し、カシナガが好む高齢木・大径木が増えたことが原因の一つとされています。



被害の特徴は？

- 梅雨明け以降、葉が紅葉し、急激に枯れあがる。
- 幹に直径1.5mm～2.0mmの多くの孔がある。
- 幹の根元に大量のフラス（木くずと虫の排泄物が混じった粉状のもの）が見られる。
- 高齢木・大径木の方が被害を受けやすい。
- すべての被害木が枯れるわけではない。
 - ・コナラでは、被害木のうち、3～5割程度が枯れると言われている。
 - ・枯れずに生き残った木は、ナラ枯れに対し、抵抗性を持つと言われている。
- 被害の収束には、5～10年くらいかかると言われている。



フラス



NPO法人さがみはら桜守の会 (相模原市さくらさくプロジェクト推進協議会 構成団体)

2017年（平成29年）、「相模原市さくらさくプロジェクト推進協議会」が開催した桜守育成講座の修了者有志が、「桜を愛し桜に思いを寄せる市民の皆様が誇れるような桜に彩られた相模原市」を目指し発足。桜の調査・保全活動、植樹、苗の育成など活動域を着々と広げ、2019年（令和元年）に特定非営利活動法人（NPO）に移行しました。

現在の主な活動フィールドは、月1回の定例活動を行う小山公園のほか、相模女子大学、上大島キャンプ場、藤野地区など多数。市内各所で、桜の樹勢状況調査、病害虫影響調査、樹勢回復処置、さらに市内の桜の名所の復興や新たな名所づくりに貢献するため苗木の植樹支援といった活動を展開しています。

また、一般対象の講習会を主催し、環境保全や桜の保護活動の輪を広げるための啓発活動も行っています。

春の風物詩ソメイヨシノの開花の裏側には、一年がかりの営みがあります。春に開花する桜の「花芽」は、前年の夏にはすでに形成されていて、その芽が冬の寒さの刺激を受け、その後の気温上昇と共に成長して開花へと向かいます。「開花のタイミングを決める要因はその時の一時的な気温だけではないのです。開花は、それまでの一年間の‘成果’だといえます。春の一日、桜を愛でながら、これから先一年間の成長も応援してください。」と代表の嶋崎さん。これからも、急速な都市化、気候変動による病害虫の発生拡大による市内の桜の衰退を食い止め、末永く花見が楽しめるよう息の長い取り組みを目指し活動を継続されるそうです。

ナラ枯れ対策について

カシナガは、外来種ではなく、古くから日本に生息し、森林生態系を構成している昆虫であることから、根絶を目指すことは、適当ではありません。

一方、ナラ枯れにより人々の生活圏で木が枯れると、枯れた木の落枝・倒木による人的被害やインフラ・家屋等への被害、歴史的・文化的価値の損失などが懸念されます。

これらのことから、県では安全面の確保を最優先とし、市町村等関係機関と連携しながら、被害対策、技術支援を行っています。

神奈川県ナラ枯れ被害対策ガイドライン：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/cnt/f537128/index.html>



主な対策手法

■ 予防～樹幹注入

健康な木の幹にナラ菌の繁殖を抑える殺菌剤を注入

■ 駆除～伐倒燻蒸（くんじょう）

被害木を伐採、切り分け、集積し、殺菌・殺虫剤で燻蒸処理

■ 拡散防止～粘着シート被覆

被害木からの新たな成虫の脱出を抑えるため、粘着シートの粘着部を内側にして被害木の幹に巻き付ける

対策は、被害状況、予算などに応じて選択しています。

被害程度が低い場合（未被害地・微害地）は、予防・早期発見・監視を行い、被害木については徹底した駆除対策が求められます。

また、中程度の被害が認められる場合や激害地においては、人身被害等が懸念される枯れた木などから優先的に伐採処分を行い、重要な木については予防対策を行うことになります。

<お願い>

道沿い、民家沿いなど危険な場所に被害木を見つけた場合は、土地の管理者もしくは、市町村や県の森林部局へ連絡してください。



樹幹注入



伐倒燻蒸



粘着シート被覆

相模原市の対策事例 ---

「東林ふれあいの森」では2017年にナラ枯れの被害が確認され、以後、相模原市及び森づくりパートナーシップ協定を締結する団体「東林ふれあいの森を愛する会」との協働で、調査や対策が進められています。これまで、カシナガの林内飛散防止のため、被害木の伐採のほか、胸高直径50cm程度の太いコナラを中心とした樹幹注入や粘着シートの被覆等が行われてきました。

しかし、被害は大きく、枝落ちなどによる人身被害を防ぐため、今後も散策路付近の枯損木の伐採が予定されています。

一方で、新たな緑による森の再生を図るため、伐採跡地へのクヌギ・コナラの植樹や、実生を育てるための下草刈りなど、「愛する会」の皆さんによる森の若返り・更新に向けた活動が、日々、続けられています。



花数調査 [3月]



定例活動を行う小山公園の桜



樹勢回復工事 [藤野]

ボランティア募集 興味をお持ちの方はぜひ お問合せください。

本格的な活動を始めたい方には、桜に関する基礎知識や桜守としての基礎技術を学べる「桜守養成講座」へのご参加をお勧めします。開講に関するお問合せは、桜守の会（下記メールアドレス）または、まち・みどり公社へ（電話042-751-6624みどり推進課）

連絡先：代表 嶋崎さん
yfa19353@nifty.com

年会費：正会員1,000円

<https://www.sagami-portal.com/hp/dnt10123/>



境川沿いに見る“スプリング・エフェメラル”

文・写真 NPO法人境川の斜面緑地を守る会
代表理事 莊司 たか志氏

早春に発芽してすぐに開花し実を付け、5月頃には地上部が枯れて、翌年の早春まで眠りについてしまう植物があります。カタクリがよく知られていますが、私の活動している境川沿いではアズマイチゲ、ヤマエンゴサク、イチリンソウなどが挙げられ、そのような植物を総称してスプリング・エフェメラル（春のはかない命）と呼んでいます。なぜそんなに急いでいるのでしょうか？

そのような植物は総じて暑さに弱いため、根に蓄えられた栄養と種子の状態です。暑さや暑い夏をやり過ぎて、命をつないでいるのです。早春といえば落葉樹がまだ葉を開いていないため、落葉樹林の林床には太陽の光が届き光合成に用いることができます。でも落葉樹の葉が開くまでの期間は短いた

め、たくさん栄養を蓄えられないので、成長には長い年数がかかります。種子から発芽してから花を咲かせ種子を作るまで何年もかかってしまうのが普通です。

スプリング・エフェメラルは暑さに弱いため、境川沿いではその多くが気温の上がりにくい北斜面に分布しています。早春には多くの日照が必要なため、落葉樹林の下にある株が元気です。しかし河川改修が進んでほとんど氾濫しなくなった現在では、放置すると常緑樹や蔓植物が優勢となり、暗い森となってしまいます。かつて広く分布した美しいスプリング・エフェメラルを存続させるには、人が適度に常緑樹などを伐採して林内を明るく保つことが必要です。



アズマイチゲ（キンポウゲ科）



ヤマエンゴサク（ケシ科）



イチリンソウ（キンポウゲ科）



緑の募金へのご協力ありがとうございました

募金総額 2,024,696円

※相模原市域集計額 [2021年2月1日～2022年1月末]

募金協力団体一覧（敬称略/順不同）：

大沢川の自然を知る会、大島観光協会、上岩生産森林組合、三太の里共和国、牧野元氣創生会、相模原グリーンロータリークラブ、相模原南ライオンズクラブ、相模原市総合就職支援センター、横浜地方検察庁相模原支局、相模原北警察署、県警相模原市警察部、津久井警察署、津久井水道営業所、城山商工会、相模原市農業協同組合、平塚信用金庫相模原中央支店、西武信用金庫橋本支店、(株)清和サービス、(株)野崎工業所、東海体育指導(株)相模原支店、山口自動車(株)、(株)旭商会、藤野やまなみ温泉、日新ビルサービス(株)、(株)パティジャパン、タイヨー印刷(株)、相模原造園協同組合、相模警備保障(株)、(公財)相模原市スポーツ協会、(株)タウンニュース社相模原支社、(株)スポーツテクノ和広、さがみビルメンテナンス協同組合、(株)明治スポーツプラザ、(株)ニシコウポレーション、橋本駅北口第一再開発ビル(株)、(株)セット、神奈川中央警備保障(株)、(株)パティネレジャー、(福)相模原市社会福祉協議会、相模トリアム(株)、(株)フクシ・エンタープライズ、日本コンピュータ・ダイナミクス(株)、アマノ(株)相模原事業所、(公財)相模原市勤労者福祉サービスセンター、相模原市役所水みどり環境課、青葉小、麻溝小、新磯小、大沼小、鹿島台小、くぬぎ台小、相武台小、田名北小、千木良小、根小屋小、藤野南小、淵野辺小、淵野辺東小、星が丘小、若松小、内郷中、鶴野森中、大沢中、新町中、相陽中、東林中、鳥屋中、中沢中、北相中、緑が丘中、麻布大学付属高、相模女子大学高等部、相模田名高、相模原高、相模原弥栄高、城山高、津久井養護学校、大野北地区自治会連合会、大野中地区自治会連合会、相模台地区自治会連合会、山王自治会、嶽之内自治会、津久井地区自治会連合会、長竹自治会、中淵自治会、橋本地区自治会連合会、藤野地区自治会連合会、星が丘地区自治会連合会

※なお、個人情報保護の観点から、個人名は省略させていただきました。

お寄せいただいた緑の募金は、市内の緑化の推進に活用させていただくほか、国・県の緑化事業や、災害被災地域への緑化等の復興支援にも活用されます。

相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告



広告

